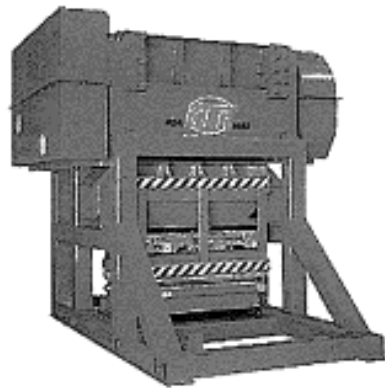


## インドネシアで再資源化を調査 「エコセパレ」の市場探る

### エムダイヤ

エムダイヤ(本社滑川市、社長森弘吉氏)は廃棄物問題が深刻化しているインドネシアで、国際協力機構(JICA)の中小企業海外展開支援事業(案件化調査)の採択を受けて、リサイクル装置「エコセパレ分離破砕機」販売の可能性を探る。市場調査は四月から約一年。

インドネシアの首都ジャカルタでは一日六千五百トンの以上の廃棄物が出るが、このうちのほとんどが西ジャワ州プカシ市のバンタルバゲン最終処分場に埋め立て処理され、処理されないものは野積や投棄されている(JICA)という。エコセパレ分離破砕機は従来、分離が困難だったタイヤや電線ケーブルなどの異素材混合物の破砕と金属・樹脂・ゴムの



脂・ゴムの分離工程を一台でできる自社開発装置。現地に導入することで、リサイクルのための再生

資源の創出と、手作業工程を削減することで作業員の処理技術不足にも対応可能かを調査する。

インドネシアは世界四位の人口(約二億三千万人)を抱えながらリサイクルシステムがほとんど普及していない。